



令和3年12月21日

報道関係各位

～全国の自治体で唯一7年連続全国TOP10入りを達成！～

福生市が「共働き子育てしやすい街ランキング2021」 で全国第5位（都内では1位）を獲得しました！



福生市は、「共働き子育てしやすい街ランキング2021」（日本経済新聞社と日経BP「日経xwoman（クロスウーマン）」の調査）で全国第5位の高評価を獲得し、7年連続でTOP10入りを果たした全国唯一の自治体となりました。また、都内では堂々の1位となりました。

■なぜ福生市がTOP10の常連なのか！？ ～予算の選択と集中～

福生市は、「共働き子育てしやすい街ランキング2021」で全国5位となり、7年連続でTOP10入りを果たした全国唯一の自治体、さらに都内では初めて1位を獲得しました。

このような輝かしい結果となった背景には、市の人口減少がありました。福生市は、平成14年をピークに人口減少が始まりましたが、これは都内ではかなり早い時期といえました。平成25年には、人口シミュレーションを行うなど、独自に研究を進めた結果、「子育て世帯」の流出が激しいことが判明したため、本格的に定住化施策、なかんずく子育て施策に重点を置くことになりました。その後、「子育てするなら ふっさ」のスローガンが現場に浸透し、全職員の意識改革が起こり、「予算の選択と集中」も進み、現在に至っています。

最近では、どの自治体も子育て支援に力を入れています。福生市は他の自治体に先んじて、広く全庁的に子育て施策に取り組んできたと自負しています。

【過去実績】2015年2位、2016年2位、2017年3位、2018年6位、2019年5位、2020年4位

■幼児教育の「質」でも高評価！ ～「学びに向かう力」の形成を～

今回の調査では、例年の幼児教育・保育の「拡充」の評価内容に加え、「質」向上がクローズアップされました。

福生市では、慶應義塾大学SFC研究所と連携協定を結んでいます。具体的には、幼・保・小の関係者や保護者を対象に、認知能力の土台となる「学びに向かう力」の形成に関連する項目を明らかにするための調査・分析や、幼児教育の質を高めるコンサルティングを実施するなど、独自の取り組みを行っていることが高い評価につながったようです。

このほかにも、病児・病後児保育の質が高いこと、子育て世帯が気軽に相談できるチャットボットの導入、令和3年10月から開始した、市ホームページ内の子育て特設サイト「こふくナビ」等も高評価の要因となり、福生市における子育て施策の幅広さと奥深さがさらに証明されました。

【問合せ】子ども育成課保育係 Tel042-551-1780